

# 昭和肥料 農業応援団

10月

緊急号

今年は全国的に6月の低温、東日本では8月の低日照・多雨、西日本では水不足。地域によっては集中豪雨の発生と「作りにくい年」に。全国作況指数は100と報じられましたが…

最近、  
体調が…

今年のお米の出来にはだれ一人満足していません!!!

- VOICE  
その1 新潟県 生産者Y氏  
「田植え後のガスわきで初期生育が悪く、倒伏も出てしまった」
- VOICE  
その2 静岡県 生産者K氏  
「春先から藻が大量発生し、生育が鈍い田んぼが多く見られた」
- VOICE  
その3 北海道 米集荷業者N氏  
「作況指数は「やや良」らしいが、稲の倒伏や不稔穂が多いと感じる」
- VOICE  
その4 群馬県 生産法人A氏  
「乳白米や篩い下、くず米が多く、一回では色選処理が終わらない」



稲作を応援

HURE!  
HURE!  
INE!

現状を繰り返さず、しっかりとれるようにする! そのために絶対必要なことは

天候不順が当たり前… 3要素(チッソ、リン酸、カリ)だけでは安定生産は困難!!

では何をするのが最善か?

## ① ケイ酸の補充(溶出性の高いケイ酸資材を使用)

多量要素のチッソのさらに10倍以上必要な「圧倒的多量要素」。

【現状】稲ワラやモミガラを土に還しているが、量も腐熟具合も不足で年々減少。年々作りにくくなったと感じる場合、真っ先に補充が必要!



## ② 鉄の補充(含鉄資材を使った土づくり)

春からのガスわきに対して、根っこを守り活力を維持。

【現状】不足のため、根の活力が低下。根が弱い=環境変化に弱い。秋耕起の不実施+鉄不足のため、多発する有害ガスを抑えきれない。

鉄壁!  
鉄バリアー



## ③ ミネラル分(カルシウム、苦土、マンガンその他微量元素)の補充

代謝に大きく影響。チッソやリン酸の効きを支えたり、病害や気候への抵抗性向上に関わる。

【現状】コストカットで補充不足。今年、問題となった「藻の大量発生」は過剰なリン酸分が原因との指摘も。ミネラル分はリン酸分を有効に作物に吸収・代謝させるため、藻の過剰発生予防にも役立ちます。

元気  
ハツラツ!



①~③は消費者から選ばれる「良食味米」「一等米」生産に当然必要というのが優良生産者の認識です。

天候不順・農政転換期の今こそ、安定生産のために施肥投資を真剣に考える時期です。備えのない生産者淘汰が進む時代、備える者にとっては大きなチャンスです!

《応援団長》  
むろい工場長



農家の  
みなさん

天候不順に負けず、むしろチャンスにする鍵は **土づくり!**